

2022年度 研究成果

■学会名 ●発表演題

2022年1月

第27回 エンブリオロジスト学会シンポジウム(web発表)

●ヒト胚における透明帯除去培養という新しい考え方

湯本啓太郎

2022年3月

■第18回 ART生涯研修シンポジウム(web発表)

●古典的な胚評価の有効性と限界

湯本啓太郎

2022年5月

■第63回 日本卵子学会

●卵細胞膜と透明帯間癒着の有無がその後の胚発育に及ぼす影響について

湯本啓太郎

●第二減数分裂後の第二極体の挙動とその後の胚発育との関連

志村陶子

↑ 上記の演題は「日本卵子学会優秀演題賞」受賞 ↑

■JISARTシンポジウム(参加)

湯本啓太郎

2022年7月

■第40回 受精着床学会

●通常培養器とTime-lapse搭載型培養器における培養結果及び臨床成績の比較検討

見尾保幸

●通常培養器とTime-lapse搭載型培養器における培養成績に関して

湯本啓太郎

●卵細胞膜と透明帯間癒着の有無がその後の胚発育に及ぼす影響について

杉嶋美奈子

2022年8月

■中国四国生殖医学会

●ヒト胚の超急速ガラス化凍結時の糖質添加の違いと融解後の臨床成績の比較検討

湯本啓太郎

●卵細胞膜と透明帯間癒着の有無がその後の胚発育に及ぼす影響について

川本実乃里

●採卵時の精液所見不良例に対する2回目採精の有用性

山口葉子

2022年10月

■第78回 American Society for Reproductive Medicine(ASRM) (Anaheim/アナハイム)

●Artificial removal of zona pellucida at the pronuclear stage (ZP-free culture) decreases the incidence of aberrant division at the first cleavage

湯本啓太郎

2022年11月

■第67回 日本生殖医学会

●通常培養器とTime-lapse搭載型培養器における培養結果及び臨床成績の比較検討

見尾保幸

●通常培養器とTime-lapse搭載型培養器における培養成績に関して

湯本啓太郎

●卵細胞膜と透明帯間癒着の有無がその後の胚発育に及ぼす影響について

川本実乃里

●採卵時の精液所見不良例に対する2回目採精の有用性

山口葉子

■メルクバイオファーマ 第5回 Clinical Embryology Seminar

●当院における保険適用の影響とその対応

湯本啓太郎

2022年12月

■扶桑薬品 ART関連webセミナー(ZOOM)

●オイル性状が培養環境に及ぼす影響

湯本啓太郎

執筆

□生殖医療ポケットマニュアル2021(胚凍結保存と凍結融解胚移植)

黄体補充 見尾保幸

胚移植 見尾保幸

胚凍結保存と凍結融解胚移植 湯本啓太郎,見尾保幸

胚培養・胚発育の評価 杉嶋美奈子,見尾保幸

□最新の不妊症診療がわかる! 生殖補助医療を中心とした新たな治療体系

タイムラプスによる胚評価法—その臨床的意義

湯本啓太郎,見尾保幸

□生殖医療フロントラインMOOK2 受精とその障害

シネマトグラフィからとらえた受精

湯本啓太郎,見尾保幸

生殖医療部 田邊 望美

2022年4月に入職しました田邊望美です。鳥取県米子市出身で、鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻を卒業しました。高校卒業までは水泳、大学ではボート競技・ラフティングに打ち込み、在学中に日本代表としてオーストラリアの川をラフティングで下った経験もあります。

入職し1年が経ちましたが、業務の中では生命の誕生という神秘に感動する半面、その責任の重さを痛感し毎日を身の引き締まる思いで過ごしています。見尾院長をはじめ、偉大な先輩方のもてしっかり学びながら技術を身につけ、ご夫婦に寄り添うことのできる胚培養士になれるよう励んでいきたいと思っております。よろしくお願いたします!

生殖医療部 Panagiota Tsounapi(ツナピ パナイオタ)

Hi! I am Panagiota Tsounapi (ツナピ パナイオタ) and I joined the Embryology lab of the MFC Reproductive Unit in April 2022. I hold a bachelor's and master degree in Biology from the Department of Biological Applications and Technologies, University of Ioannina (Greece) and a doctoral degree in Medical Science from the Graduate School of Medical Sciences, Tottori University. After my graduation, I worked as JSPS foreign fellow, assistant professor and researcher in the Division of Urology, Faculty of Medicine, Tottori University. During these years I had the chance to obtain Grants-In-Aid from the MEXT and the JSPS for research focusing on the male urogenital system, as well as research grants from pharmaceutical companies. I have published several papers in peer-review Journals and presented my research in congresses in Japan and abroad and have received several awards. Thanks to the long friendship between Dr Mio and Professor Sofikitis, I had the chance to be introduced to the MFC and observe the embryology lab work in weekends during my first years in Yonago. I consider myself very lucky to have had the chance to see the excellence of the work done here and the high skills of the members. It was my first time to be exposed to the magnificent world of assisted reproduction, observe in vitro fertilization of human oocytes and it was amazing! I had the chance to experience Dr Mio's warm hospitality, and from all the members of his clinic. I also had the privilege to deliver both my children in MFC. I really want to do my best and become a valuable member of the MFC. みなさん宜しくお願いします!

リプロダクティブ ユニット

不妊外来・MFCラボラトリー
TEL. 0859-35-5212 FAX. 0859-35-5221

医療法人 社団 ミオ・ファティリティ・クリニック

〒683-0008 鳥取県米子市車尾南2丁目1番1号
TEL. 0859-35-5211 (代) FAX. 0859-35-5213

JISART

ホームページ: www.mfc.or.jp



優秀演題賞を受賞して 第63回日本卵子学会

2022年5月末、京都にて行われた第63回日本卵子学会にて口頭発表を行いました。2020年以降、コロナ禍で学会はすべてオンライン参加だったため、約2年半ぶりの現地参加でした。久しぶりの対面形式での発表である上に、今回は優秀演題候補9題の中の1題として選出されていることを知りました。嬉しく誇らしい気持ちになると同時に、発表する自分を想像して冷や汗をかきつつも準備段階から気を引き締めて臨みました。

発表した演題は「第二減数分裂後の第二極体の挙動とその後の胚発育との関連」です。「第二極体」は精子侵入後に卵子側で再開する第二減数分裂の副産物です。言い換えると、「受精した後にたまご側からポコッと出てくる小さい細胞のようなもの」です(もちろん「第一極体」も存在しており、それは卵子が精子を迎え入れる準備が整ったという卵子成熟の証です)。この研究は、タイムラプス培養の胚観察にて、「第二極体」がヒト発生の最初の細胞分裂である第一卵割までの間に様々な形態の変化や動きを見せることに気づき、その後の受精卵の発育との関連を検討したものです。第二極体の「受精後に卵子側から放出される」という特徴から、タイムラプス培養が普及する以前の断続的な観察ではその特定と動態の把握は困難でした。本研究では、顕微授精後の受精卵のタイムラプス培養撮影データで第二極体の動きを観察し、その挙動をいくつかに分類して比較検討したところ、受精卵の発育成績と関連する可能性があるとの結果が得られました。検討も始めたばかりでまだデータ数が十分とは言えない状況で、第1報としての学会発表ではあったのですが、これまであまり注目されていなかった「第二極体の挙動」に着目したことを評価していただけたのか、優秀演題賞を受賞することができました。この受賞を今後の励みとして、データ数を増やし、発育速度との関連や第二極体の挙動のパターン分類をさらに掘り下げて検討を進めていきたいと考えています。

ご夫婦の大切な卵子と精子をお預かりしてお世話する…私たち胚培養士にできることは限られています。それでも、受精卵が本来持っている育つ力を最大限引き出すこと、それが胚培養士の使命だと思っています。タイムラプス培養でたまごたちが見せてくれるさまざまな現象を見逃さず、丁寧に注意深く、日々の業務に取り組んでいきたいです。